

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

遊びの広がり／学校法人水谷学園 北陵認定こども園 北陵幼稚園・北陵保育園

乗り物作りや乗り物ごっこを楽しむ姿はありますか？

乗り物作りや乗り物ごっこは、0歳から5歳児まで、どの年齢にも、興味をもって楽しむ姿が大人にイメージできる遊びのひとつです。では、その遊びを支える保育者は、遊びをどのように理解し援助しているでしょうか？園にはどのような環境があるでしょうか？今回は、乗り物遊びが展開していった4歳児の事例をご紹介します。



### ● 車作りからの展開／4歳児

#### ✿ 場面1：乗り物遊びが始まる（5月上旬）

- 保育室では乗り物作りらしき遊びが始まった。教材庫から箱を持ち出して車を作ったり、黒い板を使って道路のように敷き詰めたりする。
- 筒に紙の棒を乗せて、動かそうとしている。とても面白い考えで遊び出す。
- 自分がやりたいと思ったことに向き合って友達と遊び出す様子が見える。子ども同士の会話は少ない。



#### ✿ 場面2：走るはずだけど…（5月中旬）

- 保育室で車作りが続き、ペットボトルや牛乳パック等で作っている。Tちゃん「先生！キャップに穴開けて…」「キャップは走るから」と言う。すると、他の子どもたちも次々と言ってきて、箱とキャップと竹ひごで車にする（紙にタイヤを書いて貼る子どもはいない）。しかし、実際に走らせるとうまく走らないので、どうして走らないのかを考える。子どもは、「走るはずだけど…」と言い、車をよく見る。Sちゃん「くるくる回っているけど…」Tちゃん「だって、タイヤが回っているよ」Sちゃん「先生、なんでもっとうまく回らない？」と首をかしげる。保育者はSちゃんと話しながら、「スムーズに回らない」というSちゃんの言葉をきっかけに、ストローを提示する。竹ひごをストローに通すとよいと、他の子どもたちにも直ぐに伝わり、タイヤが回って走る車作りに展開していく。
- Hちゃんはタイヤが回らない車を押して「救急車です」と言う。Iちゃんたちは、「病院に行きます」と言いHちゃんの後ろに繋がっている。「離れないでください」などと言い、繋がって移動し、遊んでいる。



### ✦ 場面3：みんなで並んで走らんと

- クラス全員が車を作って遊ぶようになる。「競争しよう！」とYちゃん。その声を聴いて「一緒にやりたい！」とIちゃん。早く走らせたい気持ちでいっぱいの子どもたちには「早く、走らせるよ…」とみんなに声を掛け、遊戯室に誘う姿がある。その声に誘われて、遊戯室にみんなが集まってくる。
- みんなは車を並べて走らせる。速く走る車や進まない車、タイヤは回らず滑っているだけの車がある。何回も「ヨーイ、ドン」の合図で走らせることを繰り返す。何回か繰り返すことで滑るだけでタイヤが回らないことに気付いた子どもは、「直す」と言い保育室に戻る姿がある。
- よく走る車の子どもは「全員で並んで走らんと…」と大声で誘う。その声に応じて繰り返し遊ぶ姿があるが、部屋に戻り、車を棚に置く子どもがいる。
- Hちゃんはタイヤが回らない車を走らせていた。車のスピードには意識が薄い様子で、パン屋をするためのパン作りをする姿がある。



#### ● 保育者の読み取り、関わり

スピード競争をやめてしまった子どもたちの実態を読み取り、車のスピードに意識が向いていた保育を振り返りながら、乗り物遊びについて園内で話し合った。そして視点を広げて、車の種類、車を取り囲む環境を見直したいと考えた。更に、子どもと相談をして、実際の電車に乗り、街を散策し楽しむことにした。

### ✦ 場面4：園外活動の体験が遊びの展開に繋がる（5月下旬～6月）

- 4歳児全員で園に近い無人駅から出雲駅に電車に乗って行き、駅の様子や車窓を楽しんだ。出雲ではお店など、町の散策を楽しんだ。
- Hちゃんは「パン屋さんがあった！いい匂い…」と喜ぶ。そして、電車の模型や出雲市の町の様子をじっくりと見ていた。
- 出雲市駅での経験は、園で乗り物遊びを楽しんできた子どもたちの遊びに変化をもたらした。新たな駅名ができたり駅売店ができたりするなど、次々と考えを出し、遊びを工夫する姿が生き生きとしてきた。
- Hちゃんは車の遊びが始まった頃からパン屋さんにこだわっていた。Hちゃんは、作った車に作ったパンを積んで、「ここパン屋さんです」と言い車を押している。その後、「ドーナツもあったから作ろう」と言い作り始めた。Hちゃん「パンは好きだわ…メロンパンもあるといいが…」Tちゃん「Hちゃんは本当にパンが好きだね」Hちゃん「うーん 大好き」とパン作りを楽しんでいる。
- Sちゃんは「100円入れてください。駐車場が開きます！」などと言い、自動駐車場を作り、みんなの車が通る所で係を始めた。Sちゃん「駐車違反はしないでください。ここに駐車場がありますから…」とみんなに言う。その声を聞いて友達が寄ってくる。
- Tちゃんは「夜走るからライトを付けたい」と言い、教材庫で豆電球を見付け、実際にライトが光るように、車に工夫して付ける。
- Kちゃんはペットボトルとセロハンと懐中電灯で信号機を作る。
- Fちゃんは救急車を作った。病院に行くことを考え「助けに行きます。言ってください。電話でもいいです」と言って遊ぶ。
- その後、車庫に車を入れるためのゲートや、ガソリンスタンド、洗車場を作る子どもがいる。また、駅で切符を買ったり、病院に患者を運んだりする等の遊び方が見られるようになる。



- 子どもたちの遊びを「知る」ことや「見守る」ことを大事に考え、日々子どもたちと向き合っていると思っていても、いつの間にか「スピードのでる車を作って遊んで欲しい」という保育者の願いを優先して、子どもの遊びが見えなくなり、理解できていないことに気付いた。保育者が捉えた「スピードのある車に興味がある子ども」もいれば、もっと違う車に興味がある子どもがいる。また、それらに付随して考えられるパン屋や病院、駅売店等、自ら遊びを広げたり、深めたりしていくことが、遊びの楽しみになっている。そして、考えたり工夫したりしていく過程を十分に楽しむことが主題に繋がっていくことになると思う。



- 自分の車を作る時は、自分で使いたいものを探し、自分の考えやイメージで車を作って楽しんでいて、車を走らせる以前の作ることがすでに遊びであった。そこから子どもたちは、同じ車作りをする友達の存在に気付き始めた。自分の遊びを楽しみながら互いに繋がろうとしていた。本来、遊びの出発は一人であるが、友達を意識し自然に友達の存在を認め、関わろうとしていく姿に4歳児の発達を見ることができた。
- スピードの出る車作りに興味をもった子どもたちの他に、Hちゃんの姿に焦点を当てて変容を読み取ることで、考察した上記の内容2点が明らかになる。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」